

和光市市民環境部長 本間 修

平成27年4月から市民環境部長を拝命しました本間と申します。どうぞよろしくお願いいたします。拝命にあたり、環境行政について、抱負を申し上げたいと思います。

和光市の環境行政は、市内の自然環境の保全に尽力されている方々と我々行政との協働が大きな特徴になっていると考えております。その中で、環境づくり市民会議の方々におかれましては、日頃から行政との協働によって、環境基本計画の推進に寄与されており、今後ともそのご活躍を祈念しているところでございます。

また、協働に関しては、今後さらにその取組を前進させるために、協働を担当する市民活動推進課や農業を振興する産業支援課、さらに環境行政を司る環境課を含め、市民環境部全体で協働の推進に力を尽くしてまいりたいと考えております。

現在、当市は学校建設や区画整理等、インフラ整備に多額の財源を要しており、大変厳しい財政状況にはありますが、職員の創意工夫と市民協働の推進により、「快適環境都市わこう」の実現に向けて、当市の特徴である都市の中に残されている自然環境の保全に積極的に取り組んでまいります。

和光市市民環境部 環境課長 大野久芳

平成27年4月1日付けで環境課長を拝命しております。どうぞよろしくお願いいたします。今年度は当市の市制施行45周年の記念すべき年であり、市の最上位計画である第4次和光市総合振興計画基本構想の見直しとともに、環境施策のバイブルとも言える第2次和光市環境基本計画の中間見直しを実施する重要な1年となります。この見直しの核となる素案検討作業に、和光市環境づくり市民会議の皆様とともに関わることができることに私自身も非常に喜びを感じるとともにたいへん身の引き締まる思いでおります。将来都市像であるまちのすがた「みんなでつくる快適環境都市わこう」の実現、推進のために皆様と一緒に甚だ微力ではありますが汗をかく1年とする所存ですのでどうぞよろしくお願いいたします。

第2次和光市環境基本計画の 中間見直しと協働事業について

和光市市民環境部環境課

和光市環境基本計画は平成15年5月に策定され、現在、平成23年3月策定された第2次和光市環境基本計画の計画期間中です。このたび、この中間見直しを行うこととし、環境づくり市民会議において検討作業を開始したところです。

環境づくり市民会議では、環境課が事務局として、毎年度、環境基本計画実行計画の実施状況を評価・点検し、結果を庁内へフィードバックしており、環境課は、環境施策の企画・推進機能と庁内調整機能を果たしています。これらは、和光市の基本方針である市民参加や協働の推進の趣旨に合致する取組であると考えております。

和光市は、平成19年8月に和光市協働指針を定めて以来、その推進に尽力してまいりましたが、環境課関連では、行政提案型の各ふれあいの森の管理業務や市民提案型の緑地の生物調査、また市民緑地の保全と活用などを協働により実施してまいりました。そして、平成26年度には、和光・緑と湧き水の会との協働により「和光市湧水環境調査」を行い、市内の湧水や井戸など地下水の状況を的確に把握し、今後の環境行政に資する基礎的資料を得ることが出来ました。今後とも、和光市協働指針の理念に基づき、環境づくり市民会議をはじめとする各環境団体とともに、協働による環境施策の推進に尽力してまいります。

来たれ！ 和光市環境づくり市民会議へ 会長 峯岸正雄

本年3月の全体会議において、高橋会長の後を受け、会長に選ばれました。どうぞよろしくお願いいたします。

当会は和光市環境基本条例に基づき平成16年9月に第1回定例会(全体会議)を会員22名で開催、爾来10年余当市環境基本計画の進行管理を担う団体として機能して来ました。会員は市民および事業者有志から成り、事務局は市の環境課です。会議は原則月1回2時間程度夜間に開催、庁内担当課から提出された報告書に基づき、事務局を巻き込んで活発な意見交換を行います。会員の多くは他の環境ボランティア団体にも所属しており各自が市民目線で情報発信しています。本年度は第2次環境基本計画(計画期間:平成23年度から同32年度までの10年間)の中間年に当たり、中間見直しを行います。

原子力発電所の事故も含めその後の日本人の生き方に大きな影響を及ぼしている東日本大震災や台風、竜巻、ゲリラ豪雨等激化する各種自然災害の発生など、ここ数年の環境変化は脅威的です。

団体の活力の維持・向上には常に新規会員の参加が必要不可欠であり、当会も決してその例外ではありません。和光市にお住いの皆様、そして和光市内へ通勤、通学の皆様、是非当会へご参加下さい。会員一同皆様のご参加を心からお待ちしています。”みんなでつくる快適環境都市わこう”の実現に向けて手を繋ぎましょう。

環境づくり市民会議における

第2次環境基本計画実行計画・実施状況の評価

副会長(前会長) 高橋勝緒

平成25、26年度の2年間、会員皆さんの協力を得て、会長の任期を全うすることができました。深謝。

各年度、当会議は多くの時間を割いて標記の評価を行ってきました。その目的は、和光市が行っている環境に関わる施策がどのように実施され、成果を上げたかを、市民目線で検証することにあります。

環境での重要施策としては、基本計画により、3つの「望ましい姿」、即ち、“1. 豊かな緑を守り育み伝え

るまち”、“2. 住みよい環境を未来につなぐまち”、“3. 環境を育てる心がつながるまち”に関わるもので、特に、1.での「自然環境の保全」が重要課題として議論されました。

和光の自然環境として特徴的な湧水と斜面林など、身近な自然を、いかに次世代につなげていくかが重要課題です。市内の緑地や湧水は私有地に在るものが多く、それを守る施策が求められます。私有地の公有地化は望むところですが、財政難との理由で施策は進みません。当会議では、都市化の進む当市では、市と市民、地権者が協力して身近な自然を残す何らかの方策を工夫して構築することを強く求めてきました。そのための“新しい視点”の導入として、「緑地・湧水をグリーンインフラとして経済的価値を認識する」、「都市部の自然を文化遺産や自然遺産として保護する」、「寄付条例による基金の確保と緑地等の寄贈への適切な対応」、「都市計画と連動する区域指定や条例の導入」などの方策を求め、また、少額の予算を配分して、“新しい視点”の施策を具体的に構築する業務の遂行を求める提言をまとめ、26年末に提出しました。

2月には、これらの評価・提言を踏まえ、恒例となった、松本市長と大久保教育長、星野市民環境部長を招いての懇談会を開き、自由な意見交換の場を持つことができました。席上、上記の環境保全策への第一歩を踏み出すこと、また、学校での充実した環境教育が市の環境行政とより有効に連動することなどを要望しました。本年度、当会の評価や提言が少しでも実を結ぶことを願っています。



市長、教育長との懇談会 (H27年2月10日)

「和光市湧水環境調査」の実施

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会

代表理事 高橋絹世

2014 年度、湧き水の会は市の環境課との市民提案型協働事業として、上記の調査を提案し実施することができました。調査の目的は、市内の湧水とその周囲の緑地の現況、市内の小河川と湧水の関わり、および、市内にある井戸の状態と使用状況を調べて記録し、総合的に湧水環境を把握、湧水緑地の保全活動に結び付け、湧水等の防災・減災への活用へと展開するものです。

調査の概要は：

①湧水・緑地の現況調査：市内 40 ヶ所の湧水・緑地を選び、地形・地質的特徴、湧水量、水質、植生、利用状況、歴史などを調べました。市内には、白子川、谷中川、越戸川の3本の小河川があり、それらが、武蔵野台地を削り、斜面林とその下部の湧水を形成している状況について把握・記録しました。

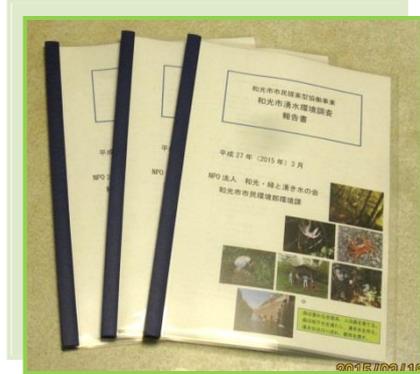
②主要湧水地の詳細調査：代表的な湧水緑地として白子湧水群（富澤湧水および大坂ふれあいの森）において、毎月、湧水の性質や水量、植生（草本種）の変化を調べました。年間を通して、安定した湧水であり、多様な野草の生育状況を把握しました。

③河川と河川への流入水：3本の小河川へ流入する水の状況を調べ、水質、水温、水量などから、流入水の多くが湧水であり、重要な水資源であることが分かりました。

④市内約 100 ヶ所の井戸の使用状況：市内にどの程度の井戸が現存するか。その使用状況について、和光市環境課が各家庭を訪れて調査しました。常時使用が約半数に上り、主に農家で大切に使われており、災害時の水源としての活用の可能性も肯定されました。また、主要井戸5ヶ所について、井戸の使用状況や水質、水位等を調べ、年間を通して安定した良質な水源であり、歴史的にも古くから利用されていた様子などを把握しました。

その結果、和光の水環境の状況を知り、記録に残す調査報告書を発行することができ、また、2015 年 1 月に、市長ご臨席のもと報告会「緑と湧き水環境フォーラム・和光」を開催し好評を得ました。これらの

成果を湧水緑地の環境保全や活用、さらに防災・減災に生かすことが今後の課題です。なお調査報告書は、図書館、公民館、地域センターで見ることができます。



自然環境の保護と保全 新井昭夫

一番の関心事は、「自然環境の保護と保全」と「少子高齢化の問題」です。縁あって1年ほど前より、「和光・緑と湧き水の会」に参加をさせて頂き、樹林公園・新倉ふれあいの森・白子湧水・大坂ふれあいの森等での活動のお手伝いをしております。その関係で「和光市環境づくり市民会議」の会員となりました。

和光市は、東京の隣で、電車・地下鉄・高速道路の便に恵まれ、都内に出るのも、地方に行くのにも気軽に出かけることができる便利な住みやすいまちです。加えて、緑と湧水に恵まれ自然も豊かです。30 年程前から和光市に住んでおります。和光市のマンションの 10 階に居を構えた時に両親・祖父を招いて家の案内をした時に、祖父から「お前は何か悪いことをしたのか？何でこんなコンクリートの牢屋みたいところに住んでいるのだ」と言われた事が忘れられません。生まれた家は、広い庭や沢山の植木はありましたが、最寄の駅まで遠く離れていて不便な家でした。和光の私の家は、祖父にとっては「コンクリートの牢屋みたいな家」に感じられたのでしょうか。

人が生活する上では「便利さ」は大事です。今の自分の家はベランダだけで庭はありませんが、樹林公園等の「公園」を自分の庭と思い、「便利さ」と「豊かな自然環境」の両方を享受しています。祖父の感じ方・現在の私の思い・そして子や孫の考え方は、時代とともに異なります。時代も変わります。特に 2020 年東京オリンピックでは和光市にも大きな変化が生じることでしょう。かけがえのない自然環境は大事に守って行きたいものです。

今の季節で思い出すのは、10 年ほど前の 5 月の立山・室堂「雷鳥荘」からの「黄色い雪山の景色」で

す。驚きました。中国の黄砂の影響です。緑の美しい公園を歩きながら、日本の自然の豊かさを有難く思います。その緑を守って、子や孫たちに残すためのお手伝いを、関係する皆さま方と一緒にやって行きたいと思っております。緑の森林の中で、森林の息吹を浴び、健全な心身を保つ事は、冒頭の「少子高齢化の問題」の間接的な解決の一助にもなるのではないのでしょうか。



アユの放流大会(H27年5月10日 わくわくパーク)

白子川を知っていますか

～水辺再生に向けて～

白子川と流域の水環境を良くする会 友國 洋

標題は、H6年に白子川汚濁対策協議会によって発行された報告書のものです。同協議会はS60年(1985)、流域の4自治体によって設立され、和光市からは市民部生活安全課(当時)が名を連ねています。標題からも高度成長期の白子川の水質の様子がうかがわれますが、記述は水質調査、汚濁改善対策とともに流域の歴史、生活史に及び、大泉の名の由来など興味深いものがあります。その後、下水道の普及とともに水質改善が進み、同協議会はH12年(2000)白子川流域環境協議会と改称し現在に至っています。機を同じくして、H13年(2001)、練馬区、板橋区、和光市の市民が、「白子川と水環境を良くする会」を発足させて、流域の水環境の調査活動を続けてきています。その成果は、「白子川流域の湧水観測の報告」にまとめ、武蔵野銀行みどりの基金の助成を受け昨年12月発刊することができました。報告書の編集に関わった者として喜ばしく思っています。前掲の

「白子川を知っていますか」と併せてお読みいただくとありがたく思います。(問い合わせは事務局へ)

五月晴れの5月10日、昨年に続き、流域の向山親水公園(わくわくパーク)において、アユの放流大会が開催されました。子どもたちの歓声がこだまする水辺に立ちながら、川と人の関係性をあらためて思いました。毎月、水の調査活動とともに、川の清掃活動をしています。活動の情報は、「わこうわいらいネット」に掲載していますので、ご参照ください。

環境にやさしい生活スタイルの推進を!

温暖化防止! 和光の会 中川善樹

「地球温暖化防止! 和光の会」の活動は、和光市内の太陽光発電普及調査と発電診断サポート・小中学校のエコライフ DAY アンケート集計サポート・家庭の省エネ診断などの活動をとおして、環境にやさしい生活スタイルへのチェンジを2015年は3つの行動で応援しています。

①省エネで電気使用量を削減、光熱費削減で家計にも優しい

3. 11後は全国的な省エネの知恵と工夫によって原発がなくても電気は足りるようになっていきます。和光市も太陽熱温水器など省エネ機器に補助金をだして市民を応援しています。

②屋根に太陽光発電設置で自家発電、電気使用量およそ50%削減のご家庭も

和光市内の太陽光発電は約1000カ所に4580kWが設置されています。この発電量は1500世帯分の電気使用量に相当します。今年1月の国際再生可能エネルギー機関の報告書によれば2000年から2014年の過去5年間で、太陽光結晶パネルの平均価格が75%も低下、世界の多くの地域で、すでに自然エネルギーのほとんどが化石燃料による発電と同じか、より安いコストで発電しています。

③電力自由化では自然エネルギーで発電した電力を購入しよう

来年2016年には電力小売が全面自由化されることとなります。東京電力以外で、もっと自然エネルギーを使った発電をする電力会社からの購入が可能になりま

す。もちろん電力会社による停電の心配はありません、電力広域的運営推進機関が送配電網を管理し、みなさんの職場や家庭に電力を供給することになります。これからも益々の環境意識の高まりと実践が欠かせません。

自前の太陽光発電所を作ってみよう！

松田 広行

移動用や災害時の非常電源にも利用できる独立型太陽光発電装置の制作を進めています。

1. システム仕様

①太陽電池パネル(85W)：追加を考慮中

②蓄電池：12V、115Ah

(G&Yu ディープサイクルバッテリー)

③インバーター：AC100V、500W 50Hz
(LP-12V500W50H_2.0)

④充電コントローラー：12V、50A。
(LP-12V50A)

※インバーターの出力が500Wなので、突入電流も含めてこの範囲の電気機器が使える。

2. 75W の予算例 (28,000 円前後)

- | | |
|--------------------|---------|
| ① 太陽電池パネル(75W、中古) | ¥10,000 |
| ② 蓄電池(12V、30Ah) | ¥5,000 |
| ③ インバーター(HG-350) | ¥3,200 |
| ④ 充電コントローラー(C2415) | ¥4,200 |
| ⑤ ケーブル(3.5SQ、5mX2) | ¥2,000 |
| ⑥ コンテナケース | ¥1,000 |
| ⑦ 取付板 | ¥500 |
| ⑧ その他(技術指導料など) | ¥2,100 |



雑感(政治的中立性など)

渡辺 哲朗

5月22日(金)NHK、介護保険制度による不正請求が多発する現状で、良い取り組み事例として紹介された和光市の仕組み、そんな成功事例は、なるべく情報共有したいもの。できれば失敗事例も合わせて。

同日、朝日新聞の天声人語、志位委員長の質問に安倍首相の「ポツダム宣言つまびらかに読んでいないので」の答弁、戦後体制からの脱却を訴える上では確かにまずいかも。団塊の世代の小生も読んでいないものの、戦後体制からの脱却は訴えておらず、昔日の成長も望まず。

大阪都構想の住民投票で敗れたとはいえ橋下大阪市長。日ごろおっしゃる民主主義における選挙の重要性、あまり関わりたくなくても、関わらざるをえない政治。報道に政治的中立は大事だが、公用車私用問題の靱井会長、大丈夫かNHK? 新聞やヤフーHPの見出しなども、政治的中立で適切に選択されているか?

アメリカ流民主主義、舞台裏でロビーの活躍。銃規制反対の全米ライフル協会、従軍慰安婦問題で少女の像まで作る一部の韓国系。情報共有も同床異夢か。業界、国家など属性へのこだわりで、いろいろに見える可能性。熟議民主主義が望まれるが目まぐるしい御時世、その場その場の雰囲気や流れで流されないようにしたいもの。大事にしたい第三者的立場、客観性、透明性、普遍性。しかし簡単に解決しない問題、とりあえずの棲み分けが必要かも、生物多様性を認めつつ。

緑とともに暮らす

金治正憲

池袋西武の屋上に、たくさんの自然の樹木や草花を植えこんだ「空中庭園」が作られています。大きな蓮池も設置され、壁面にも小さな植物が植えられ周囲のビルから遮断された空間になっています。モネのジベルニーの庭を摸した造りで、多くの人が見学に来たり、憩い、賑わっていました。同じく豊島区の新しい庁舎にも緑たっぷりの屋上庭園が開設されました。日本橋の高島屋本店でも、1階の売り場がまるでジャングルのように巨大な植物で覆われ話題を呼んでいます。東京に限らず、新しい都市開発をする際は、豊富な緑づくりをまず第一に考えることが主流になりつつあります。

商業施設の自然は集客が第一の目的で、圧倒的な大自然に比べれば、なんともちっぽけな自然に過ぎませんが、それでも人は生の自然にどこか心惹かれるものです。人が生きていくには、ハイテクや実用といった科学技術の発達ばかりではなく、自然や文化が不可欠であることに多くの人気が気付いているのではないのでしょうか。自然を切り開いてつくったヨーロッパの町で、石造りのマンションが立ち並ぶ中に一歩足を踏み入れ、中庭を覆う樹と花、ベランダというベランダに植えられた花々に圧倒された覚えがあります。

国の地方創生政策にともなって和光市版の創生戦略を策定するそうですが、交通至便で人口が増加している和光は、徒に商工業の発展を目指すのではなく、より充実した住宅都市に創生すべきであろうと思います。いまのままでは「緑豊かな住宅都市」の掛け声も虚しく自然は減る一方、このあたりで踏みとどまって、本気でガーデン都市といわれるほど住環境と一体化した豊かな自然を創出することを願ってやみません。

農地の活用を

友國 洋

都内のセミナーで、東京都練馬区みどり推進課の話聞く機会がありました。「新しい成熟都市・練馬」をめざして、農の活きるまち練馬、みどりあふれるまちづくりを進めているということでした。農地の環境保全、教育、福祉・保健、防災、景観形成・歴史文化伝承等の機能を活かすべく、農の風景育成地区の指定を進めているとのこと。こうした取り組みは、和光市も参考になると思います。

和光市においても、これまでアグリパークや、学校農園、市民農園を取り組んできているが、市民体験農園は少なく、ふれあいの森に代表される市民緑地は減少の一途を辿り、練馬区の後塵を拝しています。

ここで、市内の屋敷林、斜面林、湧水地ともに、生産緑地を市民緑地制度に組み入れてはどうか。地権者、納税者の理解はもとより、制度的制約がネックになろうが、国が進めている地方創生のためには、制度や規制改革と発想の転換が求められます。

(編集後記)

4月1日付けで、和光市市民環境部長、環境課長が新しく就任し、市民会議でも新正副会長が就任しました。ちょうど第2次環境基本計画の中間見直しの検討が始まったところで、和光市環境づくり市民会議の一端を伝えることができました。

会報は「わこうわいわいネット」にアップしていますので参照、利用ください。(編集子)

発行:和光市環境づくり市民会議
事務局 (和光市環境課)
電話 048-464-1111
<https://opencity.jp/wako/>